



商品、原材料、エネルギーの無駄を省き 地球環境の保全に貢献します



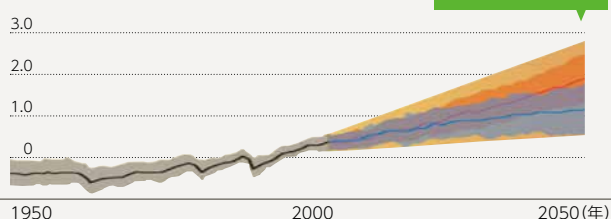
社会的 背景

地球規模の課題である気候変動問題。このままでは2050年に最悪の場合、気温が2℃近く上昇すると予想されており、その主たる原因はCO₂の排出によるものと考えられています。

また、食品廃棄物問題も深刻です。2011年の世界の食料援助量は約390万トンにものぼるものの、日本では毎年1,700万トン以上の食料を廃棄しており、その中には、食べ残しや賞味期限切れなど、まだ食べられるはずの食べ物、いわゆる食品ロスが500万～800万トンも含まれています。

世界の気温上昇予測

(℃)



出典：IPCC「第5次評価報告書」全国地球温暖化防止活動推進センター
ウェブサイト(<http://www.jccca.org/>)より

世界の食料援助量と日本の年間食品ロス

世界の
食料援助量



2011年
390万トン

膨大な食品ロス

日本の
食品ロス



年間
500万～800万トン

出典：農林水産省「食品ロス削減に向けて」

地球環境と企業活動の持続可能性を実現するために
事業活動による環境負荷を低減するとともに、お客様やお取引先
地域社会の皆様と協力し、資源の無駄のない利用に取り組んでいます。

店舗における環境負荷の低減

グループで排出するCO₂の約9割は、店舗運営に欠かせない設備のエネルギー使用によるものであるため、省エネルギー設備の導入を推進

物流におけるCO₂排出量の削減

配送車両によるCO₂排出を抑制する必要性から、環境配慮型車両の導入など、さまざまな取り組みを推進

約束のための活動

食品リサイクルの推進

「食品リサイクル率の向上」を重要テーマに掲げて、食品廃棄物を有効活用する取り組みを推進

容器包装材などの削減

商品提供時に使用する容器包装材について、パッケージの簡素化やレジ袋の削減などを推進して廃棄物量を削減

生み出す 価値

社会にとっての価値

資源の有効活用

CO₂排出量の
削減

セブン&アイHLDGS. にとっての価値

エネルギー
コストの削減

リサイクル率の
向上



商品、原材料、エネルギーの無駄を省き
地球環境の保全に貢献します

環境負荷の適切な把握

CO₂排出量の削減目標の設定

セブン&アイHLDGS.は、地球温暖化防止を目的とした「CO₂排出量の削減目標値」を設定しています。最新の省エネ設備、再生可能エネルギーの導入などにより、日本国内の事業会社9社^{※1}の2011年度の環境対策と同レベルの対応をした場合、2017年度見込みCO₂排出量から約10%削減することを目指しています。

CO₂排出量の第三者審査

セブン&アイHLDGS.では、環境負荷低減の取り組みを正しく評価・検証するために、グループ主要10事業会社^{※2}における店舗運営に伴うCO₂排出量の第三者審査を2011年度から受けています。審査対象の10社の売上高は、合計でグループ全体の約96%をカバーしており、数値の正確性と社内外への信頼性を高めることにつながっています。(温室効果ガス排出量検証報告書はP64)

※1 対象会社：セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、そごう・西武、ヨークベニマル、セブン&アイ・フードシステムズ、ヨークマート、赤ちゃん本舗、ロフト、シェルガーデンの9社

※2 ※1の9社に7-Eleven, Inc.を加えた10社

ISO14001の取得

セブン&アイHLDGS.では、環境マネジメントシステムの強化を目的に、ISO14001の取得を推進しています。そごう・西武の全事業所、セブン-イレブン・ジャパンの本部および全国にある事務所、東京都内の直営店を対象として、継続して運用しています。

2014年度には、新たにセブン&アイ・フードシステムズが取得しました。今後もマネジメントシステムを活用し、事業活動を通じた環境負荷の低減に、各部署が取り組んでいきます。

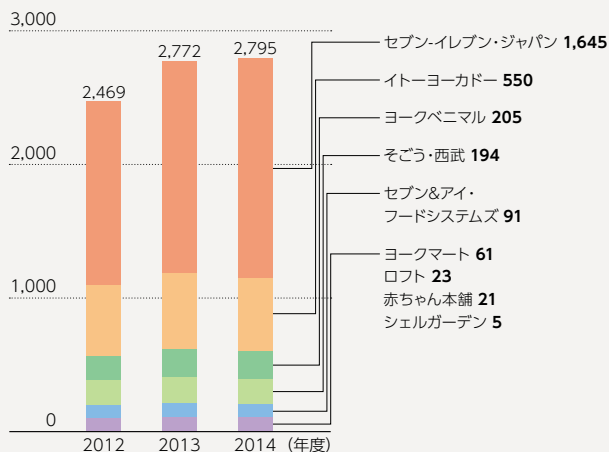
従業員への意識啓発

セブン&アイHLDGS.は、従業員の環境意識の向上を目的として、「eco検定^{※3}」取得キャンペーンを実施しました。このキャンペーンは、eco検定合格者に対し一定額の補助を支給するもので、2015年7月のeco検定において、グループ全体で951人が受検し、753人が合格しました。

※3 東京商工会議所が主催している環境に関する検定試験正式名称は環境社会検定試験

CO₂排出量[※]

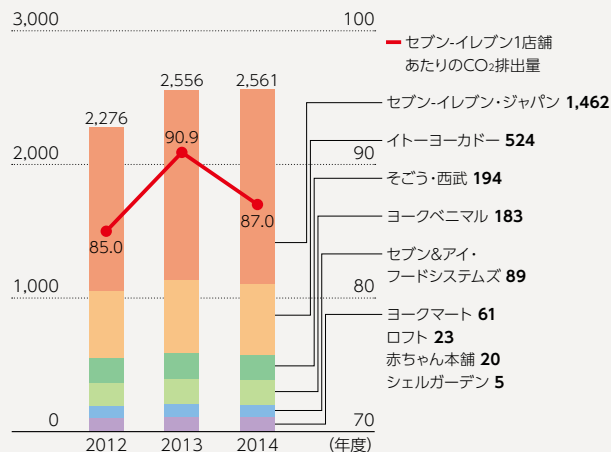
(千t-CO₂)



※店舗に伴うCO₂排出量に物流と本部などを加えたエネルギー使用に由来するCO₂排出量。算出方法はWebサイトに掲載しているデータ集をご覧ください。

店舗運営に伴うCO₂排出量[※]

(千t-CO₂)



※算出条件はWebサイトに掲載しているデータ集をご覧ください。

●「スコープ3※1」の算定

セブン&アイHLDGS.では、環境省の「サプライチェーン排出量算定支援」事業を活用し、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン Ver2.1」に沿って、2013年度のグループ主要6社※2のサプライチェーン全体におけるCO₂排出量（「スコープ3」）を初めて算定しました。

この支援事業において、セブン&アイ・フードシステムズによる算定は、飲食業界で初めての取り組み事例となります。2014年度の「スコープ3」についても同様に算定しました。この算定結果をふまえ、サプライチェーン全体でのCO₂排出量のさらなる削減を目指します。

※ 6社の各算定結果は以下のサイトで公表しています。

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/business/case_smpl.html

※ 1 「スコープ3」：自社排出量以外の、原材料・商品の調達、配送、商品使用、廃棄過程から出るCO₂排出量

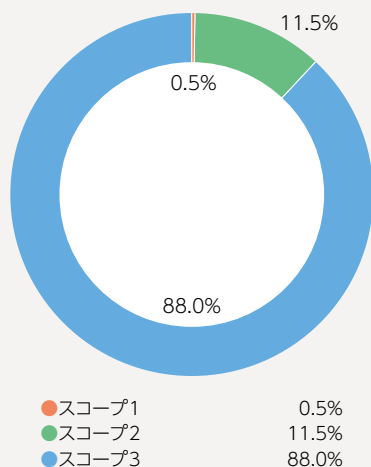
※ 2 セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、そごう・西武、ヨークマート、セブン&アイ・フードシステムズ、セブン銀行の6社

2014年度 サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量の内訳

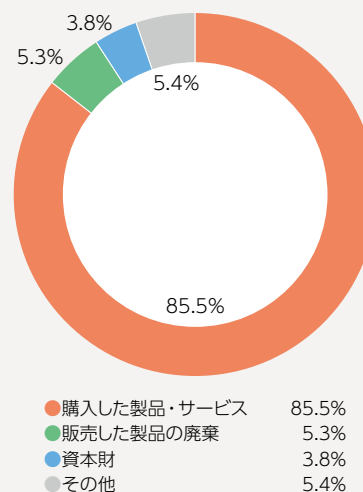
算定対象期間：2014年3月～2015年2月

区分	カテゴリ	内容一覧	構成比
スコープ1	直接排出	自家発電による燃料使用	0.5%
スコープ2	エネルギー起源の間接排出	電力使用	11.5%
スコープ3	その他の間接排出	以下	88.0%
カテゴリ1	購入した製品・サービス	原材料の調達	85.8%
カテゴリ2	資本財	設備への投資	3.8%
カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料	使用したエネルギーの調達	0.9%
カテゴリ4	輸送、配送（上流）	配送センターから店舗への配送	1.4%
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	店内の廃棄物の廃棄処理	0.4%
カテゴリ6	出張	従業員の出張	0.0%
カテゴリ7	雇用者の通勤	従業員の通勤	0.2%
カテゴリ8	リース資産（上流）	データセンターへの電気使用量	0.0%
カテゴリ9	輸送、配送（下流）	店舗からお客様宅への配送	0.2%
カテゴリ11	販売した製品の使用	販売した商品の使用	0.7%
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	販売した商品の廃棄処理	5.3%
カテゴリ13	リース資産（下流）	テナントのエネルギー使用	1.4%

2014年度 スコープ1、2、3の排出量の内訳



2014年度 スコープ3の内訳





商品、原材料、エネルギーの無駄を省き
地球環境の保全に貢献します

店舗における環境負荷の低減

●省エネ設備の導入促進

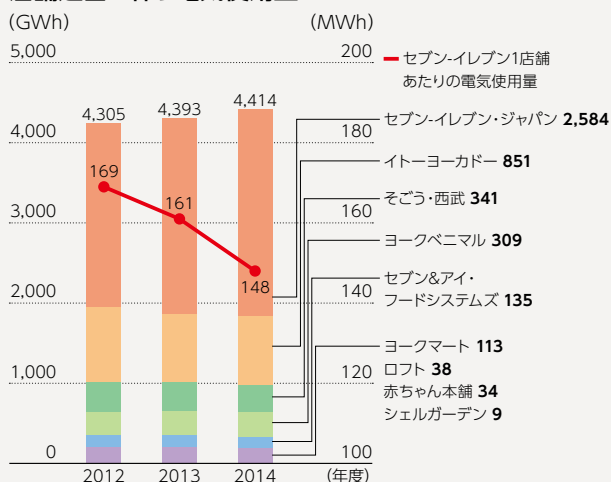
セブン&アイHLDGS.では、店舗の増加や大型化、商品・サービスの拡充に比例して環境負荷の増加を抑制するために、新店オープンや既存店の改装に合わせ、LED照明や太陽光発電パネルなどの省エネルギー設備の導入を進めています。

セブン-イレブンでは、環境に配慮した店舗づくりを推進するために、店頭看板や売場照明、店外など、あらゆる照明のLED化を進めています。店内照明の交換前に85本の蛍光灯を使用していた店舗では、LED照明への交換により、年間で11,508kWh/店の削減効果がありました。また、太陽光発電パネルの設置も進めており、設置店舗数は7,278店舗(2015年8月末現在)に拡大しています。



イトーヨーカドーでは、店舗運営に伴う環境負荷低減のために、2015年2月末現在でLED照明をほぼ全店舗に、太陽光パネルを14店に設置しています。

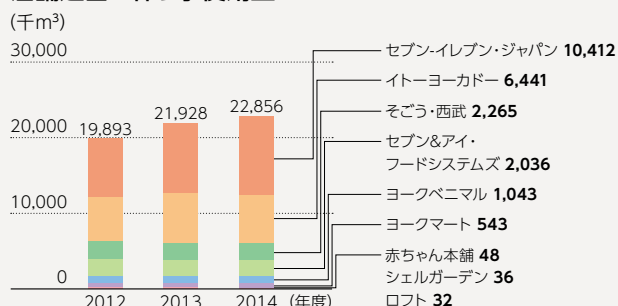
店舗運営に伴う電気使用量



●節水対策

セブン&アイHLDGS.の店舗では、日頃から節水に努めるとともに、節水タップの設置や省エネタイプの水洗トイレの導入、さらに雨水などを活用することで水使用量の削減を図っています。

店舗運営に伴う水使用量



●フロンの管理

セブン&アイHLDGS.の店舗では、店舗改装時などにフロン使用機器を代替フロン機器に交換しています。また、フロンの漏えいを防ぐために2015年4月から施行されたフロン排出抑制法に則り、国の定めた定期点検を実施しています。機器廃棄時には、法律に則って専門の業者にフロンの回収を依頼。事業者から発行される引取証明書で適正な処理を確認しています。

また、店舗で使用している商品陳列用の冷凍冷蔵ケースのノンフロ化を進めており、セブン-イレブンではCO₂冷媒を使用した冷凍冷蔵設備を75店舗(2015年8月末現在)に導入し、イトーヨーカドーでも3店舗でテスト運用しています。

●電気自動車用充電器の設置

セブン&アイHLDGS.と日本電気株式会社は、全国45店舗の「イトーヨーカドー」「Ario」「そごう」「西武」に合計3,380台の電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド自動車(PHV)用充電器を設置し、有料充電サービスを提供します。

この取り組みは国内最大規模のEV・PHV用充電器導入事例であり、2015年11月以降、充電器を設置した店舗から順次提供を開始する予定です。これにより、商業施設としての利便性の向上を目指すとともに、お買物ついでに充電していただけるEV・PHVの利用スタイルの確立や、環境配慮型の次世代自動車の普及促進による低炭素社会の実現に貢献することを目的としています。

なお、この充電サービスは、国内自動車メーカー4社が設立した合同会社日本充電サービスが発行する充電カードや電子マネー「nanaco(ナナコ)」による決済を予定しています。

●店舗併設の水素ステーション

セブン-イレブンは、岩谷産業株式会社と水素ステーションの店舗併設に関する包括合意書を締結し、2016年に東京都と愛知県に併設店舗2店舗を開店する予定です。

セブン-イレブンの店舗において、純水素型燃料電池を活用した店舗の環境負荷低減について実証実験を行い、小売店舗における燃料電池活用の将来性について検証します。また、地域に根差した「近くて便利」なお店づくりを推進するとともに、「商品」「サービス」「クリーンエネルギー」を1カ所で提供することができる社会インフラとしての拠点づくりを目指します。

セブン-イレブンでは、今後も、「省エネ、創エネ、蓄エネ」による総合的な節電に積極的に取り組むことで、総電力使用量を削減するとともに、環境にやさしい店舗づくりに取り組んでいきます。



併設店舗イメージ

TOPIC

7-Eleven, Inc. の取り組み

7-Eleven, Inc. では、店舗の消費電力を削減するため、LED照明やエネルギー管理システム(EMS)を導入しています。このEMSにより、消費電力が大きい空調や冷蔵機器を監視・管理・最適化することができ、機器の遠隔操作が可能です。また、EMSから入手したリアルタイムのデータを分析することで、エネルギー消費や費用の低減にもつながります。LED照明は2011年度以降5,000店舗に、EMSは3,600店舗以上に導入しています。2014年度、こうした取り組みにより、29万8,422トンのCO₂排出量削減効果と、約4,500万ドルのコスト削減効果をあげました。



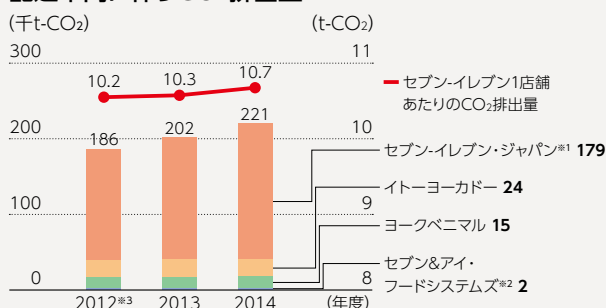
LED照明

物流における環境負荷の削減

● 配送におけるCO₂排出量の削減

セブン&アイHLDGS.は、環境配慮型車両の導入を進めているほか、燃費改善、店舗への配送回数の削減などに取り組んでいます。また、トラックの走行状況を記録する車載端末の導入を進めており、データに基づいた運行指導やエコドライブ講習会を実施しています。

配送車両に伴うCO₂排出量



※1 配送センターの運営に伴うCO₂排出量も含みます。

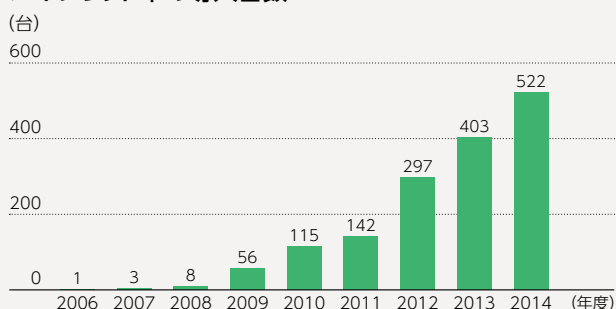
※2 デニーズ単体の数値です。

※3 東日本大震災の影響で把握できない分を含めていません。

● 環境配慮型車両の導入

セブン-イレブンでは、配送車を減速時に発生するエネルギーを回収し、発進・加速時のモーター駆動に二次利用できるハイブリッドトラックへの入れ替えを進めています。これにより、燃費向上やCO₂排出削減などの効果が期待できます。配送車両は4,856台(2015年2月末)、そのうち、ハイブリッドトラックは522台を占めています。2020年までに全体の20%を環境配慮型車両に切り替えていく予定です。

ハイブリッド車の導入台数



● エコタイヤの導入を促進

セブン-イレブンでは、配送車両のタイヤの転がり抵抗を低減する「エコタイヤ」の導入を促進しています。2015年2月末時点、全車両の約95%にあたる4,707台の配送車両に導入しています。

また、寿命が終了したタイヤの路面と接する部分のゴムの表面を決められた寸度に削り、その上に新しいゴムを張り付け、溝をつけて配送車両の後輪に再生利用(リユース)する「リトレッドタイヤ(更生タイヤ)」の導入についても延べ6,013台(2015年2月末)で実施しています。

使用後のタイヤを再利用でき、省資源、廃棄物削減に貢献できるとして、導入を促進しています。

※1台につき複数回脱着しているため延べ台数になります。



新品タイヤ



リトレッドタイヤ

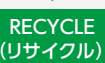
REDUCE (リデュース)

新品タイヤの価値を
100%活用。



リトレッドタイヤ
の完成

REUSE (リユース)



RECYCLE
(リサイクル)

マテリアルリサイクル
(原材料としての再利用)
サーマルリサイクル
(熱利用)

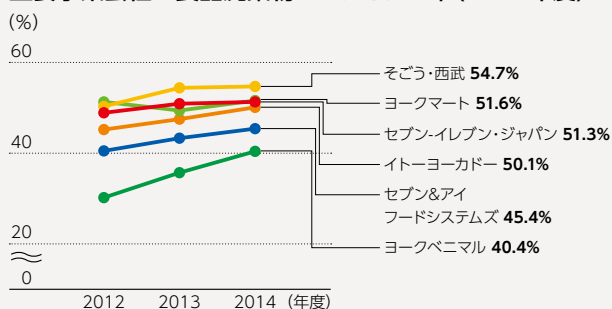
食品リサイクルの推進

●環境循環型農業(セブンファーム)

イトーヨーカドーは、2008年8月に食品リサイクル率の向上と地域農業の活性化を目的に農業生産法人「セブンファーム富里」(千葉県富里市)を設立し、小売業で初めて「環境循環型農業」を開始しました。これは、店舗から排出される食品残さ(生ごみ)を堆肥化し、セブンファームが農場に使用、そこで栽培・収穫された農産物を店舗で販売する取り組みです(全国11カ所で運営)。

この取り組みが評価され、一般財団法人食品産業センターおよび公益財団法人食品流通構造改善促進機構主催(後援:農林水産省)「平成25年度 第35回食品産業優良企業等表彰」において、農林水産大臣賞を受賞しました。

主要事業会社の食品廃棄物のリサイクル率(2014年度)



セブンファームの概要



●生ごみ処理機の設定

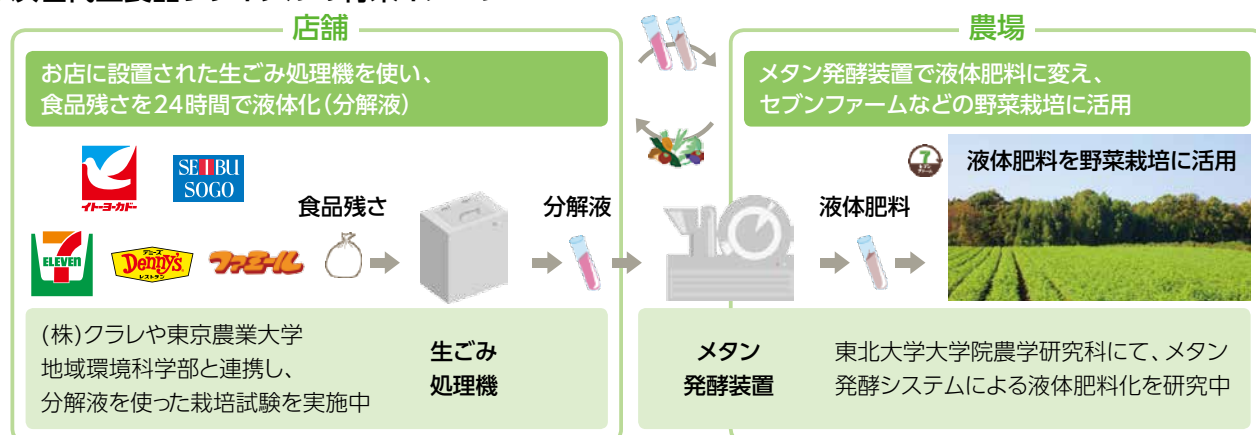
イトーヨーカドーでは、2011年10月から微生物の働きを利用した「生物分解型生ごみ処理機」を12店舗に設置しています。繊維質が多いなど、リサイクルに向かない生ごみを微生物の力で水とCO₂に分解することにより、焼却処分に比べてCO₂発生量の低減が図れると同時に、ごみの減量化にも効果があります。

TOPIC

食品残さを液体肥料化する研究に着手

セブン-イレブンでは、店舗から出る食品残さの液体肥料化、液体肥料の野菜栽培への活用など、新たな食品リサイクルループの実現に向けた研究に着手しました。

●次世代型食品リサイクルの将来イメージ



容器包装材などの削減

●ペットボトル自動回収機を設置

イトーヨーカドー、ヨークベニマル、ヨークマートでは、2012年からペットボトル自動回収機を店頭で設置しています。店頭で自動回収機に投入されたペットボトルは、自動的に異物の除去・減容（圧縮または破碎）されるため、店舗からリサイクル工場まで一度で大量に輸送することができ、配送回数を削減できます。さらに、セブン&アイHLDGS.の物流ルートを活用することで、より効率的な輸送が可能となり、配送に関わるCO₂排出量の削減につながります。

加えて、回収されたペットボトルの一部は、国内でペットボトルなどに再生されます。こうしたペットボトルからペットボトルへの「循環型リサイクル」システムは、国内の大手小売チェーン全体としては初めての取り組みです。2015年7月末現在、3社合計で254店舗に設置しています。

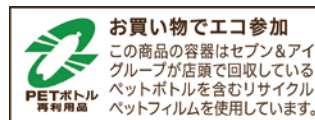
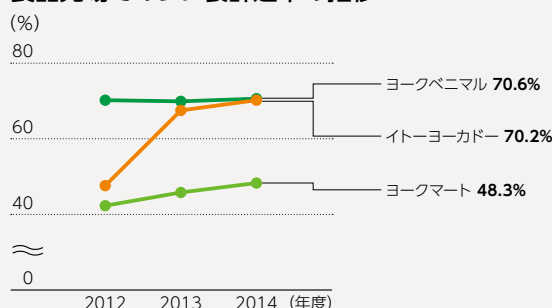
また、店頭で回収したペットボトルのリサイクル素材を容器に使用したプライベートブランド「セブンプレミアム詰め替え用ボディソープ」などを、生活家庭用品を環境配慮型商品として販売しています。

●レジ袋の削減を推進

セブン&アイHLDGS.は、お客様への声かけやマイバッグ持参のお願いをするポスター・POPの掲出、イベントなどを通じてレジ袋の削減を推進しています。

例えば、イトーヨーカドーでは、全店舗で食品売場のレジ袋無料配布を中止しました。2014年度の食品売場でのレジ袋辞退率は70.2%になりました。

食品売場でのレジ袋辞退率の推移



お買い物でエコ参加

この商品の容器はセブン&アイグループが店頭で回収しているペットボトルを含むリサイクルペットフィルムを使用しています。

ペットボトルのリサイクル素材を使用した商品

自動回収機を活用したペットボトルのリサイクルシステム



「環境配慮型商品」を積極的に展開

●「セブンカフェ」カップに間伐材を使用

全国のセブン-イレブン店舗を中心に販売している「セブンカフェ」のホットカップの外側スリーブ部について、間伐材を使った仕様への切り替えを順次進めています。2015年8月末現在、四国を除く全国で切り替えが進み、年内には全店での切り替えが完了する予定です。これは、“コンビニコーヒー”における初の取り組みとなります。

なお、「長野セブンの森」の間伐材を活用したオリジナル商品については56ページをご参照ください。



セブンカフェカップと「間伐材マーク」(側面裏側に印刷)

●サラダカップ容器に環境配慮型PETを配合

セブン-イレブン店舗のチルドケースで販売しているオリジナルの「サラダカップ容器」については、石油由来のPET容器から「環境配慮型PET(リサイクルPET、バイオマスPET)」を配合した容器へ切り替えを進めています(2015年12月までに100%切り替え完了見込み)。この対応によるCO₂排出削減量は1,790t(2015年度)を見込んでおり、このような規模感での取り組みはコンビニ業界初となります。

なお、店頭で回収したペットボトルのリサイクル素材を容器に使用したオリジナル商品について43ページをご参照ください。



環境配慮型PETを使った「サラダカップ容器」の一例

●酒類紙パックを「アルミ不使用」に変更

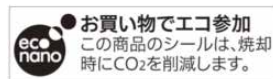
グループ各店舗で販売している紙パック式のセブンプレミアム酒類各種パッケージの仕様を、従来のアルミパックからノンアルミパックに2015年7月より順次変更しています。これにより、牛乳パックと同様に紙パックとしてリサイクルが可能となるほか、原材料調達や製造工程における1本当たりのCO₂排出量を、従来のアルミパックと比較して約12%削減できる等、環境にやさしいノンアルミパックとなります。



識別マークも「紙マーク」から「紙パックマーク」へ変更

●商品ラベルをエコ素材に変更

グループ各店舗で販売中の「セブンゴールド 金の食パン」ならびに「セブンプレミアム こだわり新鮮たまご」シリーズの商品ラベルを、焼却時のCO₂発生量を約2割削減するエコ素材「エコナノラベル」に2015年2月より順次変更しています。



CO₂吸収剤を使用した商品ラベルの一例